

『防災紙芝居について』

災害に対する心構えや防災意識の向上については、子供の時からの「防災教育」が重要です。また、子供達には将来、「地域の担い手」となることが期待されることから、小学校低学年（1, 2 年生）、幼稚園児、保育園児等の子供達に対して、地震・津波が起こった場合の心構えなどに関心を持ってもらい、意識に残るような防災啓発を行なうことを目的として、紙芝居を作成しました。

1. 紙芝居の内容

（タイトル） おおきなじしんがきたら

（あらすじ）

小学校低学年の男の子（しょう君）が一人で留守番をしている時に、大きな地震が発生。日頃から家族で話していた「津波避難ビル」へ避難して、無事に母親と会う物語。

* 地震の揺れから身を守り、1 分以上の大きな揺れでは「津波」が来る可能性が高いので、近くの津波避難ビルの 3 階以上へ逃げる「行動」を分かりやすく啓発する内容です。

2. 紙芝居の制作

「西宮市防災啓発課」、「NPO 法人 日本災害救援ボランティアネットワーク」、「さくら FM」の 3 者による共同制作です。

《役割》

- ・西宮市防災啓発課：企画、シナリオ作成
- ・NPO 法人 日本災害救援ボランティアネットワーク：イラスト、デザイン作成
- ・さくら FM：音声吹き込み

3. 活用方法

紙媒体、パワーポイント（音声入り）、動画（音声入り）を作成し、幼稚園・保育園には「紙媒体」を提供し、小学校へは「学校教育ネットワーク (EduNet)」に登録して、教諭等に自由に活用していただきます。

また「西宮市公式 YouTube」には「動画(音声入り)」に登録し、一般の方にも広く見ていただけるように公開しています。

（問合せ先）

防災危機管理局
防災総括室 防災啓発課

3 5 - 3 5 7 9

